

## 第2期ビジョン中間評価の概要

第2期とやま呉西圏域ビジョンで取り組んでいる31の連携事業について、それぞれの達成状況の評価を行うとともに、連携中枢都市圏として求められる役割の達成状況について基本目標とKPIをあわせて評価

### (1) 連携中枢都市圏としての役割を果たすための取組み

国が定める連携中枢都市圏の3つの役割「圏域全体の経済成長のけん引」「高次の都市機能の集積・強化」「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」について、基本目標と重要業績評価指標（KPI）を設定

⇒連携中枢都市圏としての役割がどの程度達成されているかを評価

	A	B	C
基本目標	4	0	0
KPI	15	4	0

A：概ね順調、B：推進が必要、C：達成は困難

#### 【評価結果】

★基本目標のすべての項目について、KPIについては約8割の項目で「概ね順調（A）」となり、連携中枢都市圏としての役割を高い水準で達成できていると評価

### (2) 圏域が目指す将来像の実現に向けた取組み

圏域の将来像である『環日本海の中核拠点』の実現に向けて、「人」「強み」「つながり」の活用・充実を掲げた3つの取組みの柱ごとに、31の連携事業の達成状況を測るための指標を設定

⇒将来像の実現に向けた取組みがどの程度達成できているかを評価

	A	B	C
人	9	3	0
強み	3	3	0
つながり	10	5	0

A：概ね順調、B：推進が必要、C：達成は困難

#### 【評価結果】

★各連携事業の達成状況は概ね良好であり、将来像の実現に向けた取組みに一定の成果を得られたと評価

- ・「人」：人口減少が急速に進み、多くの産業において労働力の不足が顕在化している中で、起業を志す人の支援や医療・福祉分野の人材確保・育成、移住者の増加に向けた取組みに連携の効果が現れてきている。
- ・「強み」：アフターコロナ期や能登半島地震からの復興期にあたり、圏域産業の高付加価値化や競争力の強化、多彩な観光資源を活用した広域観光の推進など「稼ぐ力」を創出する取組みをさらに展開させていく必要がある。
- ・「つながり」：人々の生活や学びに関する取組みに一定の効果が見られる。市域を超えた社会課題への対応や各種住民サービスの維持・向上がますます重要となっており、圏域内での交流の活性化やネットワーク機能の強化を図ることで、生涯安心して暮らせる圏域づくりに向けて、取組みを推進する必要がある。